

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 11 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520634

研究課題名（和文）小学校外国語活動における ALT を活用した教員研修プログラムの開発

研究課題名（英文）Designing an In-Service Teacher Development Program for Foreign Language Activities at Elementary Schools: With a Specific Focus on Utilizing ALTs

研究代表者

築道 和明 (TSUIDO Kazuaki)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：30188510

研究成果の概要（和文）：

2009 年には、教育行政担当者に面接調査を実施し、小学校外国語活動の現状と課題について把握した。2010 年に、小学校外国語活動に関わる教員研修の枠組みとして①授業実践の共有、②英語運用能力の向上、③実践上の問題についての共有、という 3 つの柱を設定、教育行政担当者、ALT との協働により、研修会を半年間、試行的に実施した。また、ALT 及び小学校教員に対する意識調査を質問紙により実施した。2011 年には、それらの調査結果を分析した上で、研究全体の取りまとめを報告書の形でまとめた。

研究成果の概要（英文）：

In 2009, we interviewed a teachers' consultant who was in charge of managing foreign language activities at A prefecture in the western part of Japan, and obtained some information on the *status quo* of in-service teacher development in the field of English language education at elementary school level. In the following year, an experimental in-service teacher development program was implemented, focusing on the three aspects: (1) sharing classroom practice; (2) developing functional abilities of English; (3) discussing on problems and solutions they are faced with in their classroom. This program was conducted once a month from July, 2010 to February, 2011 with a collaboration of teachers' consultants, elementary school teachers, ALTs, and us. In the same year, we also administered a questionnaire survey to elementary school teachers and ALTs in A prefecture. Based on these surveys, we completed a research report in the final year of 2012.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：ALT, 異文化理解, 小学校外国語活動, 教員研修, 協働性

## 1. 研究開始当初の背景

1987年に開始された The Japan Exchange and Teaching Programme (語学指導等を行う外国青年招致事業, 以下 JET プログラム) は、その目的として(1)我が国の地域レベルの国際化と(2)外国語教育の改善・充実、といった二点を目指していた。JET プログラムに参加する外国青年の中で、学校現場で日本人教員と Team Teaching を行っている Assistant Language Teachers (ALT) がその 9 割を占めている。しかしながら、実際の教室場面で ALT が十分には活用されていないとする指摘がある。実際、文部科学省の英語教育実施状況調査においても高等学校段階での ALT の活用は、平成 21 年度実績では、普通科高校で 9.1%、英語教育を主とする学科においてさえ、33.2%に過ぎない実態がある。このような現状の中で、平成 23 年度(2011)から新たに実施された新学習指導要領において、小学校の教育課程に「外国語活動」が組み込まれ、外国語活動の具体的な実施にあたっては、ネイティブ・スピーカーの活用等が求められている(文部科学省 2008)。また、文部科学省の統計(2009)によると外国語活動における ALT の活用時間率は、JET プログラム以外の ALT も含めると、小学校では 67.4%になっており、中学校の 24.9%よりはるかに高い。しかしながら、小学校の外国語活動では、ALT の異文化適応上の問題は言うまでもなく、Team Teaching に関しても中等学校現場に導入された時よりもさらに多くの問題や混乱が予想される。何故ならば、中等学校での外国語科とは異なり小学校の外国語活動は担当教員の外国語運用能力をはじめ、カリキュラムや教材、指導方法、評価方法等、その全体にわたって未知数の部分が多いからである。とりわけ重要な問題として小学校教員に対する研修という課題がある。

つまり、当事者である小学校教員も今後外国語活動について研鑽を積まなくてはならないからである。これまでの中等学校での Team Teaching でしばしば指摘されてきた ALT の役割の曖昧さ、それによる仕事のなさ等、ALT の不満につながる要因について十分に検討を加え、小学校の外国語活動において ALT をどのように活用するかを早急に考える必要がある。つまり、ALT や小学校教員が直面している個別具体的な問題(授業に関わる問題や職場の人間関係に関する個々の問題等)に焦点を当て、ミクロな観点からの異文化理解に関わる諸問題を外国語活動の実施という具体的な状況に即して、日常的に、継続的に議論しうる研修プログラムが求められている。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究は、小学校教員の外国語活動に関する研修という点に焦点化して、その研修の中に ALT をどのように活用していくかに関して考察することを意図してスタートした。しかしながら、JET プログラムによる ALT の招致人数は、我が国の財政的な事情により漸減しつつあり、多数の ALT を小学校教員の研修に関与させるという当初の研究目的は実現が困難な状況となった。

そこで、本研究では、小学校外国語活動の円滑な実施に向けて、教員研修の充実を図ることが急務であるという基本的な前提は維持しながら、島根県教育委員会が行っている小学校外国語活動のための教員研修を踏まえ、小学校外国語活動の完全実施に向けて求められる教員研修の基本的な枠組みを検討し、その枠組みに基づいた教員研修を試行することを目指すこととした。その際、教員研修の枠組みの中に ALT の存在や彼らの役割をどう位置づけるか、さらには、小学校外国

語活動を進める上で ALT をどう活用するかに関しても考察を加え、今後の在り方について提案を行うことにした。

本研究の主要な目的について整理すると以下のようになる。

研究目的（１） 小学校外国語活動のための教員研修に関する基本的枠組みとは何かを検討し、教員研修を試行する

研究目的（２） 移行期間中における小学校外国語活動の実態と課題を把握する

### 3. 研究の方法

上記研究目的（１）を明らかにするために、

①小学校外国語活動の教員研修を推進する立場にある教育行政担当者に面接（半構造化面接）を実施し、②異文化理解に関わる課題について ALT への質問紙調査を行う。また、可能な範囲で小学校外国語活動の授業に参加観察を実施する。面接調査、質問紙調査、授業観察等の複数の観点からデータを収集し、可能な範囲で教育行政担当者から提供される教育委員会実施の調査結果も補完し、それらを総合的に考察、分析した上で、小学校外国語活動に関する教員研修の基本的な枠組みを検討する。その上で、我々がこれまでに築いてきた島根県での教育行政担当者との信頼関係に基づいて、公的な研修とは異なる教員研修の計画を立案し、試行し、参加者からのフィードバックを受けて、研修の基本的な枠組みの妥当性について分析する。

研究目的（２）に関しては、小学校教員及び ALT 対象の質問紙調査を中心に実施し、小学校外国語活動の実態とそのスムーズな実施に向けての課題を整理する。

### 4. 研究成果

#### （１）平成 21 年度の主な研究成果

小学校外国語活動に関する教員研修プログラムの基本的な枠組みを検討する上で、教

育行政担当者（指導主事）への面接を行った。これにより、フィールドとして選んだ島根県では、外国語活動について地域差、学校差、教員の意識差等が存在していること、小学校教員対象の中核教員研修に関しては、国の方針を前倒して始め、3 年間の研修を行っていることが明らかになった。そこで、次年度に試行する小学校教員向けの研修では県内の拠点校を中心に実践を進めている教員の実践発表を広く共有するという目標を研修の柱の一つに位置付けた。また、教員研修のもう一つの柱としては、小学校教員自身が不安に感じている英語運用能力について、ALT を中心に研修内容を構築していくこととした。

#### （２）平成 22 年度の主な研究成果

小学校外国語活動に関する教員研修を試行的に実施し（表 1 参照）、参加者からのフィードバックを得て、研修プログラムの枠組みの妥当性を検証した。併せて、ALT 及び小学校教員対象のアンケート調査を実施し、小学校外国語活動の完全実施に向けた課題を検討した。また、試行的な教員研修プログラムで発表された実践内容を中心として『小学校外国語活動実践ハンドブック』として冊子にまとめた。

表 1. 外国語活動教員研修の概要

日 時	内 容	参加人数（概数）
2010 年 7 月 31 日	自己紹介 + Warm-up, 実践発表 3 件, 教室英語練習, アイデアや情報交換	46
2010 年 8 月 21 日	Warm-up, 実践発表 2 件, 教室英語練習, アイデアや情報交換	37

2010年9月18日	Warm-up, 実践発表 2件, 教室英語練習, アイデアや情報交換	39
2010年10月23日	Warm-up, 実践発表 2件, 教室英語練習, アイデアや情報交換, タイの小学校英語教育について(留学生発表)	40
2010年11月20日	Warm-up, 実践発表 2件(複式学級), 教室英語練習, アイデアや情報交換	36
2010年12月26日	Warm-up, 評価から見直す外国語活動(指導主事), 実践発表2件, 教室英語練習, アイデアや情報交換	38
2011年2月19日	Warm-up, 実践発表 2件(特別支援学級担任, 中学校英語科教員), 教室英語練習, アイデアや情報交換	51

### (3) 平成23年度の主な研究成果

前年度実施したALT対象のアンケート調査、小学校教員対象のアンケート調査をそれぞれ取りまとめ、論文の形で執筆した。また、前年度試行した教員研修に関しては長期休業中に二回継続的に実施した。その上で、本研究期間中に発表した論文の全てを最終報告書として冊子にまとめた。

ALT対象のアンケート調査からは、異文化適応上の主要な問題としては、中学校・高等学校勤務のALTでは生徒の問題行動への対処という事が困難な課題として浮かび上が

っていた。こうした認識は小学校勤務や小学校兼務のALTでは「問題行動」としてとらえる場合もあるものの、「児童の元気の良さ、活発さ」というように肯定的にとらえる者もあり、異文化認識の上での個人差や環境差(学校種による違い)等が浮き彫りになった。小学校教員対象の調査では、全国的な規模の調査で指摘されている課題と同様に、指導方法や指導技術、教員の英語力、教材開発や準備のための時間、といった課題が多くの学校から課題として指摘された。また、移行期間中の指導体制の実際については、「JETプログラムのALTと担任教員」という形が最も一般的で、望ましい指導体制についても同様の意見が最も多かった。さらに、外国語活動による児童の変化についても90%の学校で、プラスの変化がみられた。具体的には、英語に対する慣れ親しみ、コミュニケーションに対する積極性、外国語や異文化への関心といったように、学習指導要領における外国語活動が目指している目標に照合する形での児童の変化を多くの学校はとらえている。今後の展望については、開始年齢について低学年や中学年を支持する意見が47%と半数近くを占め、さらに、教科として指導することが望ましいとする回答も16%に及んだ。必修化直前でのアンケート調査であったが、教員の意識としては現状の外国語活動の先を見据えた展望も一部共有されていることをうかがわせる結果となった。

最後に、本研究の意義及び残された課題についてまとめる。

(1) 中等教育でのALTと日本人教員との間の相互理解において指摘されてきた主要な課題(ALTの孤立感、有用感の欠如や日本人教員の多忙さ等)が、小学校教育現場でも同様に存在する。英語運用能力という面で不安を感じている小学校教員のコミュニケー

ションに対する積極的な姿勢を肯定的にとらえる ALT も存在しているので、今後、この点をさらに考究する必要がある。

(2) 小学校外国語活動に関する教員研修は多く試みられているが、実施主体として本研修を進めてきた大学の研究者、指導主事、ALT、小学校教員、という立場の異なる者が協働して企画し、立案し、実施する教員研修の試みは希有であり、且つ意義のあるものである。しかしながら、試行した教員研修に毎回参加する教員がいる一方で、参加したくても物理的に参加できない教員や、そもそも外国語活動そのものに関心を示さない教員の存在も否定できない。地域で主導的に実践を進めている教員とこうした多くの教員とをどうつなぐか、今後に残された大きな課題である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

1. Tsuido, K., M. Otani & W. Davies. An Analysis of Assistant Language Teachers' Perceptions of their Working Relationships with Japanese Teachers of English. *Hiroshima Studies in Language and Language Education*, 査読有 No.15, 2012, pp.49-64.
2. 大谷みどり・築道和明. 小学校外国語活動の現状と課題への一考察—島根県教員へのアンケート調査から—『島根大学教育学部紀要』査読有, 第 45 巻(教育科学), 2011, pp.9-17
3. Davies, W., K. Tsuido & M. Otani. The Challenges of Teaching English Language Classes in Japanese Primary Schools. *Hiroshima Studies in Language and Language Education*, 査読有, 2010, No.14, pp.33-46.

4. 築道和明・ウォルター・デイビス・大谷みどり. 小学校外国語活動における ALT の活用の在り方に関する基礎的研究 (2)—小学校外国語活動の目標は ALT にどう理解されるか—『広島外国語教育研究』査読有, 2010, No.13, pp.1-14

5. 大谷みどり. 小学校外国語活動とコミュニケーション能力に関する一考察 『島根大学教育学部紀要』査読有, 第 44 巻別冊, 2010, pp.37-41.

6. 大谷みどり・築道和明. 小学校外国語活動における ALT の活用の在り方に関する基礎的研究—ALT に対する予備的調査を通して—『島根大学教育学部紀要』査読有, 第 43 巻, 2009, pp.21-29

[学会発表] (計 6 件)

1. 大谷みどり・築道和明 子どもたちの多文化への気づき—小学校外国語活動を通しての一考察 多文化関係学会第 10 回全国大会、2011 年 9 月 18 日、青山学院大学
2. 大谷みどり 小学校外国語活動における外国語指導助手の役割と課題—異文化間教育の視点からの一考察 異文化教育学会第 32 回全国大会、2011 年 6 月 11 日、お茶の水女子大学
3. 築道和明 小学校英語の指導と評価のあり方 日本児童英語教育学会全国大会、2010 年 11 月 6 日、大阪成蹊大学
4. 大谷みどり 日本の小学校における異文化的要因—小学校教員と ALT 間の課題分析予備調査をもとに—多文化関係学会年次大会、2009 年 10 月 18 日、関西大学
5. 築道和明 小学校外国語(英語)活動と中・高英語教育の接続—その課題と展望、全国英語教育学会鳥取研究大会 シンポジウム、2009 年 8 月 9 日、鳥取大学
6. 大谷みどり 外国語活動における ALT の役割と課題—国際理解教育・異文化コミュニ

ケーションの視点から 日本児童英語教育  
学会中国・四国支部研究大会、2009年5月  
17日、広島国際プラザ

〔図書〕(計3件)

1 築道和明. 広島ニシキプリント、 小学  
校外国語活動における ALT を活用した教員  
研修プログラムの開発 127 ページ 2012  
年

2 築道和明・大谷みどり. 広島ニシキプリン  
ト、 小学校外国語活動実践ハンドブック  
115 ページ、2011年

3 大谷みどり・築道和明. 明石書店、 日本  
の教育現場における外国語指導助手と日本  
人教員の関わり—多文化共生の視点からの  
一考察 『多文化社会 日本の課題』2011  
年、pp.100-120

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

築道 和明 (TSUIDO Kazuaki)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：30188510

(2) 研究分担者

大谷 みどり (OTANI Midori)

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号：80533299

ウォルターJ.H. デイビス (WALTER  
J.H. Davies)

広島大学・外国語教育研究センター・准  
教授

研究者番号：30448261